

平成27年(2015年)11月16日(月曜日)

堀田博史 園田学園女子大学教授



タブレット端末の活用に対し、必要とされていく力の一つに思考力がある。それが「生き生きと学び合う授業の創造」に取り組む兵庫県芦屋市立精道小学校(谷川久吉校長、児童709人)。課題解決型学習(アクティブラーニング)を展開し、友達の考え方から自分で選んだカードを基に、見て感じた

やクループで考えたことは、話し合いに必要な論理的に説明できる力を「聞く」という姿勢であるが求められているのである。友達の意見に対して、「比較する」や「聞く」など、自分で加えるなど、授業では思考の部分が非常に際立つて見える。こうした子どもを育てるためには学習規律を整え、教員研修を積み重ねることで、前提になるの

る。

例えば、映像などが送られてきたときに、個人

連付ける」など、それらの考え方を明らかにするが日常授業できちんと訓練されていることが欠かさない。そうした方が、同じ校の子どもたちには育つた実践を支える取り組みも参考にしてほしい。

「聞く」姿勢を育む

これまで、授業では、教員が日常授業できちんと訓練しているが、それが自分の意見を述べるための基礎となる。「聞く」姿勢は、教員が日常授業できちんと訓練しているが、それが自分の意見を述べるための基礎となる。

そこで、前提になるの



## ICT活用



# 学び合い 深まる思考

兵庫・芦屋市立精道小学校

(公財)パナソニック教育財団の特別研究指定期校として、効果的なICT機器の活用を通じて「生き生きと学び合う授業の創造」に取り組む兵庫県芦屋市立精道小学校(谷川久吉校長、児童709人)。課題解決型学習(アクティブラーニング)を展開し、友達の考え方から自分

の考えを発展させるなど、思考をさらに深める子どもの姿が目立つようになったという。文科省ICTを活用した教育推進自治体応援事業企画・評議会委員などを歴任し、同校を指導・助言する堀田博史・園田学園女子大学教授のコラムと併せて紹介する。

## 課題解決型の学習展開

### 多様な見方を共有

答えに選んだカードは、グループに与えられた一台のタブレットで、グループ対抗でかるた取りゲームを楽しむ5年生の子どもたち。机上には色鮮やかなアートカードがあり。読みはその中から選んだ二つのカードを基に、見て感じた

出題された問題に対し、机上にあるカードの中から正解を探した

た。たった1台のタブレットから、プロジェクターを使って大画面にして投影。一覧形式にして投影。さまざまな

まだ。

例えば、5年算数の公開授業では、四角形の面積の求め方を工夫して考えた。この授業では、発表グループの考え方を各グループのタブレット端末に投影し、そこに書き込みが加えられるようにする

こと。これは紙でもできることでさらに理解を深めた。これは紙でもできることで、発表グループの考え方を各グループのタブレット端末に投影し、そこには自分の意見を持ち、相手に伝えるなどの相手に伝えるなどの

ことは、自分が重点に置くのままならない。これまで課題だったことの一つが、教師間のICT機器活用に関する情報の差。そこで月1回の職員会議の前段階に応じた実践事例を集約している。

こうした視点を踏まえ、校内研修では子どもに付けていた力を意識し、授業の質を問い合わせるようにしている。「鑑賞」を扱った国工の授業。同校が取り組む効果的なICT機器の活用は、表現(思考・判断)の手助けや考え方の共有など、さまざま



### 参加者に 事例集配布

ICT活用術や指導法「ICT実践事例集」を配布。問い合わせがあれば提供できる」と

文章中の絵と漢字を結び付けて考える1年国語の授業  
捉え、「ICTミニ研究会」を開催し、基本となるプロジェクトや(15分程度)や機会を

実物投影機の使い方や機能などを全体に広めてきた。時間が限られる中、研究主任の大林亮教諭は「こうした隙

機能などを全体に広めてきた。時間が限られる中、研究主任の大林亮教諭は「こうした隙

時間に有効的に使うべきである」と話す

中、研究主任の大林亮教諭は「こうした隙

### 付けたい力を意識し授業改善

このようにして、この授業では、発表グループの思考は、自分の意見を持ち、相手に伝えるなどの相手に伝えるなどの

ことは、自分が重点に置くの

だ。

このようにして、この授業では、発表グループの思考は、自分の意見を持ち、相手に伝えるなどの相手に伝えるなどの

ことは、自分が重点に置くの

だ。

だ。